

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103902		
法人名	株式会社河北食品		
事業所名	千代の里グループホーム		
所在地	和歌山県和歌山市延時84-1 (電話) 073-456-3312		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 18人, 非常勤 4人, 常勤換算	16.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	11 名	要介護2		3 名	
要介護3	7 名	要介護4		4 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中江病院(内科・外科・整形)、野上歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームでは、お世話中心のケアにとどまらず、認知症予防に重点を置き利用者に接している。その一環でもある脳トレーニングとして月～土曜の昼食後の約1時間、事務長が朗読会を催している。この朗読会は利用者の楽しみとなっていて、利用者はいきいきとした表情で事務長との掛け合いを弾ませる等、生き甲斐のように感じている利用者もいる。また、朗読会の時間は、緊張の連続する勤務中においてスタッフ達が少しでもまとまった休息をとれるような工夫でもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題であった地域とのつきあい、運営推進会議、市町村との連携、災害対策、については、自治会へ加入し町内会・民生委員等と前進に向けた話合いや、中・高校生の研修に施設を開放する、運営推進会議は構成員を確保し開催される予定となっている等、改善に向けた取組が行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はフロア一長を中心に取り組み、スタッフに要点を話しながら問題解決に向けた共有をはかり、まとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>調査の時点では運営推進会議は未だ開催されていないが、10月に開催予定である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3ヶ月に1度ホーム便り・出納報告共に家族あてに送付している。利用者の健康状態等変化があれば都度電話等で連絡を入れていると共に、ホーム便り等を通じて苦情や意見を出せる窓口について頻繁に広報している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中・高校生の体験研修等や年1回の夏祭りの開催で地域に徐々に認知され始めている。近くの消防署やタクシー会社とは馴染みの関係が出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者本位の、要介護であっても生き甲斐のある生活実感が持てて地域社会の中から隔離せず人間らしい生活を送ることができる」という独自理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング時には毎回理念を再確認し皆で共有している。また、スタッフ自らの夢である「明るく楽しく笑いのあるホーム作り」を目指して取り組んでいる。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の夏祭りは地域にチラシを配布して広報しており、地域の人々も楽しみにしている。また事業所の隣の市民農園の方と交流があったり徐々に認知され始めている。また中・高校生の研修の場として事業所が活用されている。	○	今後、運営推進会議等の機会を捉えて地域の交流について努力されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	フロー一長が要点をスタッフに問いかけ意見集約をし、まとめた。普段の当たり前が見直しに際し学びに役立ち、職員の改善に向けた意識の向上に繋がっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていないが、すでに構成員の確保が出来ており、10月開催に向けて取り組んでいる。	○	今後定期的に行われ、会議内容を行政関係にも、報告協力をもらえるように努力されたいことを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所からは相談は持ちかけるなど働きかけているが、市担当者と連携し取り組むまでは出来ていない。	○	今後も機会を捉え、市の担当者との連携が図れるよう、働きかける事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	3ヶ月に1度ホーム便り・出納報告共に家族あてに送付している。利用者の健康状態等変化があれば都度電話等で連絡を入れている。	○	出来れば金銭管理は毎月の報告が望まれる。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ホーム便り等を通じて苦情や意見を出せる窓口、メールでの受付も出来る旨をひんぱんに広報している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染んでいる職員との関係もあり異動は最小限に抑えている。異動があればチームで対応し、利用者にダメージが出ないように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	グループホーム連絡会、介護普及協会の研修などにスタッフが参加し学んでいる。また新任には2週間或いは1ヶ月職員が付き添いトレーニングしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡会が行う勉強会に参加しており会員相互でそれぞれの事業所のサービスの向上のために取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時には本人家族はもちろんのことケアマネージャーにも見学をしてもらい事業所についての理解度を高めてもらっている。アセスメントや介護計画は家族にも参加してもらい相談しながら作成し、利用者が徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションをとるよう努め、共に過ごすという事を大切にしている。スタッフが知らない昔のことをいろいろ教えてもらったりする中で、学んだり支え合ったりの関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の傾聴につとめ、自己決定を尊重し希望に添ったケアを実施している。把握の困難な人には状況等で判断したり家族からも聞き取りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段から利用者家族とコミュニケーションをとり、その上でセンター方式により介護計画を作成している。また、月1回のミーティングにおいて話し合い、変化があれば本人、家族の意見や希望を聞き作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しており、その時の状況に応じた計画を作成している。変化があれば随時見直して、歩行困難な場合でも介助時両足が床に着く介護がなされる様に計画実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じての里帰りや外泊支援も行っている。また利用者の希望により外食やミニ観光としてドライブに出かける等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回ホームのかかりつけ医の往診があり、また以前からのかかりつけ医を持っている利用者は通院という形を取っている。通院は原則家族の付添いによるが、出来ない時はスタッフが付添う等支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に詳細を説明しており、状況に応じて医者や家族と話し合いの場を設けて方針の共有化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは利用者を尊重し、その人に応じた言葉かけや対応をしている。またプライバシーにも配慮してさりげない介助を心掛けている。記録は一人ずつファイルに保管し、外部に漏れないよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを目指しており利用者の立場に立ったケアを行うようつとめている。個々のペースで日々の生活が送れるよう希望を可能な限り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの状況に合わせ準備から片づけまでを一緒に行っている。介助が必要であれば時間をかけてゆっくり楽しみながら職員もいろいろと話しかけ共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員がほぼ毎日入浴している。声かけを行い時間についても利用者の意思を尊重しながら希望にあわせてくつろいだ入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や家事、手芸等の趣味を満喫出来るような環境作りを目指している。日々の生活から得意なこと、経験から楽しみを聞き出し楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭に出てお弁当を食べたり、敷地内の散歩や畑仕事をして室内に閉じこもらない工夫をしている。出来るだけ希望に添えるようにスタッフと一緒に散歩やドライブ、買い物等外へ出かける機会作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は夜間以外は施錠していない。帰宅願望の人などがおられるが、見守り等でカバーしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと、施設内消防訓練を行っている。スタッフは休みの人も参加して昼夜想定での訓練をしている。	○	施設内だけでなく地域からの参加も含めて協力が得られるよう働きかけることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもと、個々に合わせ主食、副食の量の調整を行っている。また、体調に合わせて食事量を変えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節感のある花や絵、工作等を飾っている。利用者の短歌や手芸をスタッフがうまくレイアウトし和める空間となっている。音量の調整、換気等に配慮して心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに趣味の手作りの日本人形やちぎり絵を飾ったりして楽しめる空間になっている。また使い慣れた家具や家族の写真を壁に貼る等、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		